

# 参 考 资 料

# 参考資料

## 第3回北九州市未来産業創造会議

皆様からいただいたご意見を踏まえた重要な  
視点を反映させた「稼げるまち」実現のための  
3つの戦略と6つの方策（案）

令和5年12月26日  
北九州市産業経済局

### 未来産業創造会議での議論

#### 1 議論① 新しい発想やアイデア等

- 戦略策定にあたり、行政だけでは得られない民間ならではの視点、新しい発想やアイデアを取り入れるため、「未来産業創造会議」を開催

第1回目（7月28日） 第2回目（11月16日）

#### 《会議での主な意見》



- 北九州ならではのレバレッジの効いた施策が必要
- 高付加価値サービスの提供
- 伝統と革新の掛け合わせによる新しい価値の創出
- 地域の課題解決に活路がある
- 人材育成・確保の重要性
- 専門性の高い潜在的労働者が存在
- 学研で育成した人材を産学官連携で取り込む
- 夢を描く力を持った人が増えることで、新たなチャレンジをする企業も増加
- 特区制度を活用した実証、新ビジネスの創出
- 認知度をあげるブランディングが必要
- 24時間空港を活かした貨物輸送
- ものづくりの街で培われた技術を活かす
- 環境都市としてのブランディング
- 医療・介護、農業、クリーンエネルギー、宇宙など（未来産業として力を入れる分野）
- 短期中期的には投資コストの軽い産業（観光・IT・サービス業等）を中心に捉え、中長期的には、投資コストがかかる重工業の発展を目指す
- バックアップ機能を充実させることに視点をおいた産業投資を行うことが有益
- 周辺自治体との連携によるサポート体制の構築
- 市の根本となる思想を明確化

## 未来産業創造会議での議論

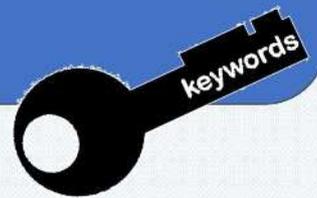
### 2 議論② キーワード

- 「未来産業創造会議」で議論された産業の未来を考える上でのキーワード

【多くの方のご意見にあったキーワード】

### 『北九州市だからこそ』

- ・ 目指すべき方向性を明確化
- ・ ポテンシャル(災害リスクの低さ、グリーン、ものづくり技術、学研、空港、物流インフラ)を開花
- ・ 周辺都市との連携
- ・ 掛け合わせ
- ・ 課題解決に活路
- ・ 特区の活用 (健康・医療、農業等)
- ・ 高付加価値化
- ・ ブランディング (観光等)
- ・ テック系人材
- ・ 人材育成・確保
- ・ 多様な人材の活躍促進
- ・ 産学官連携



2

## 未来産業創造会議での議論

### 3 議論③ 未来産業のポテンシャル調査結果等

- 「未来産業創造会議」で北九州市が提示した資料

#### ◇未来産業のポテンシャル調査結果

(重点産業選定)

- ①健康・医療
- ②蓄電池
- ③水素・アンモニア
- ④次世代自動車
- ⑤半導体
- ⑥宇宙

#### ◇第3次産業の振興の方向性

##### ①域外市場からの所得獲得

(観光・インバウンド・MICEの推進、北九州発の特産品やサービスの域外展開支援)

##### ②域内市場産業の魅力向上、高付加価値化の推進

(商品サービスの高付加価値化、事業者の生産性向上・DX支援、魅力的な商業・サービスの形成(商店街の再生))

##### ③若者・女性を惹きつける魅力的な産業の振興

(若者で賑わうサービス産業の誘致、IT産業の振興、新しいサービス産業の振興(コンテンツ、フェムテックなど))

3

# 産業振興戦略の方向性

## 4 会議でのキーワード、未来産業のポテンシャル調査等を踏まえた重要な視点

産業の未来を考える上でのキーワード	北九州市の特色	政策の方向性	背景・課題	重要な視点
ポテンシャル (災害リスクの低さ、インフラ等)	◆過去100年で震度4以上の地震は3回のみ (官営八幡製鉄所が創業の地を選んでのも地震の少なさ) ◆産業集積、川、水と電力の豊富さ、低廉なコスト	⇒ 災害時においても日本の社会・経済活動を支える拠点となる「 <b>バックアップ首都</b> 」	南海トラフ地震や首都直下地震などの巨大地震のリスクの高まり	⇒ <b>企業誘致の推進によるバックアップ首都構想の実現</b>
ポテンシャル (グリーン)	◆環境先進都市としての歴史 ◆再生可能エネルギーの拠点化 (風力発電、水素等) ◆日本最大級のエコタウン ◆GX推進コンソーシアム	⇒ カーボンニュートラル実現に向けて、環境と経済の好循環による <b>グリーン成長を先導</b>	国は、今後10年間に150兆円超の官民GX投資を実現する方針	⇒ <b>将来の成長を牽引するグリーン産業、未来産業への挑戦</b>
ポテンシャル (ものづくり技術)	◆ものづくり企業の技術、集積 (製造品出荷額は全国7位(苅田町含む)) ◆ <b>学術研究都市</b> (半導体・ロボット・AI等の研究力) ◆豊富な理工系(テック)人材	⇒ 次世代自動車・蓄電池、半導体、宇宙などの <b>未来産業の振興</b>	本市の産業構造と親和性があり、将来の経済成長を牽引していくことが期待される未来産業 (ポテンシャル調査結果)	⇒
ポテンシャル (空港、物流インフラ)	◆24時間運用でSea&Air輸送が可能な海上空港 ◆陸・海・空の充実したインフラ	⇒ <b>北九州空港の国際物流拠点化</b> 及び陸海空の結節点周辺エリアを中心とした <b>物流関連施設の集積</b>	◇空港の滑走路3,000m化延長 ◇九州に進む半導体産業の集積 (物流の拠点開設や機能充実の動きが活発化) ◇2024年問題を「物流革新」によりチャンスへ転換	⇒ <b>北九州空港等の陸海空のインフラを活用した物流拠点の形成</b>
周辺自治体との連携	◆福岡都市圏や大分県、中国地方とつながる唯一の都市 (福北連携、関門連携、連携中核都市など)	⇒ <b>北部九州エリア全体での繁栄</b> を目指す (空港間の役割分担、広域での観光・インバウンド・MICE、企業誘致の推進、スタートアップ支援等)	インバウンドなど世界からアテンションを集めるには、都市間で連携してリージョンとしての魅力を高める必要がある	⇒ <b>北部九州圏のメガリージョンの構築</b>
掛け合わせ、課題解決に活路、特区の活用 (健康・医療、農業等)	◆グローバル大企業存在(安川電機、TOTO等) ◆ものづくり・環境のまちを支える「 <b>技術</b> 」の存在 ◆国家戦略特区等の指定区域 ◆学術研究都市、豊富な理工系(テック)人材	⇒ スタートアップ等と培われてきたものづくり技術等の <b>掛け合わせ、特区活用により、課題解決に向けた新しい価値を創出</b>	◇グローバルで活躍する企業を生み出してきた、まちのDNA ◇激変する経済・社会構造の変化の中で、企業に求められる事業変革の必要性 ◇「少子高齢化・人口減少」の課題先進都市 ◇政令市平均を大きく下回る開業率	⇒ <b>多様な掛け合わせによる革新的な価値創造</b>
高付加価値化	◆「ロボット・DX推進センター」によるワンストップ支援体制 (IoT導入からビジネスモデル変革まで) ◆経済産業省「DXセレクト」を受賞した8社中、3社が市内企業 ◆2万人の富裕層	⇒ 本市の強みである <b>製造業の「稼げる企業」への更なる変革</b> 、労働生産性が低い商業・サービス産業などの <b>第3次産業の生産性向上</b>	◇「ものづくり」の技術とデジタルの融合による新しい価値創造の可能性 ◇商業・サービスなど第3次産業の労働生産性に伸びしろ大 (DXの推進やAIの活用、Uxの導入による生産性向上、アラブドリーム等による高付加価値化が必要)	⇒ <b>生産性向上、高付加価値化</b>
ブランディング (観光等)	◆歴史・文化・自然・食等バラエティ豊かな観光資源 (小倉城、新三大夜景、門司港レトロ、平尾台、若松北海岸、寿司、成人式(2派手衣装)等) ◆多様な文化芸術施設 (芸術劇場等)、スポーツ施設 (スタジアム等) ◆漫画、アニメなどのポップカルチャー、映画の街	⇒ 『観光資源などの魅力』、『外国語や理工系などの先進的な教育』を徹底的に発信し、 <b>全国からアテンションを集め、北九州市を知ってもらい、見てもらい</b>	◇北九州市の認知度不足 ◇インバウンドをはじめとした域外需要の取り込み ◇若者にとって魅力のあるまちづくりの推進	⇒ <b>アテンションを集めるブランディング</b>
テック系人材、人材教育、多様な人材の活躍促進	◆豊富な理工系(テック)人材 ◆グローバル大企業や地元ものづくり企業のOBなど、豊富な技術者 ◆潜在的な就労可能人材 (低い女性・シニアの就業率)	⇒ <b>テック系人材などの育成・確保、リスキリングの促進</b> (成長分野(IT)や人手不足業種(建設・製造・介護等)) <b>多様な人材の活躍推進</b> (外国人、女性、シニア)	◇「少子高齢化・人口減少」に伴う人手不足の深刻化 ◇若者の流出 ◇ものづくり技術の継承の必要性 ◇職種間のミスマッチ ◇全国平均より低い就業率 (女性・シニア)	⇒ <b>多様な人材を活かすダイバーシティ経営の推進</b>

北九州市だからこそ

# 産業振興戦略の方向性

## 5 産業振興戦略の方向性 (案)

[目標 (スローガン)]

未来産業創造会議及びワーキンググループの皆様から頂いたご意見を踏まえた重要な視点を反映させた3つの戦略と6つの方策 (案)

[戦略①] バックアップ首都戦略 (稼げる企業を呼び込む)	[戦略②] 将来の成長を牽引するグリーン産業、未来産業創出戦略 (稼げる企業を創出する)	[戦略③] 多様な掛けあわせによる革新的な価値創造戦略 (稼げる企業へ変革する)
<b>方策</b>	<b>取組の概要</b>	
[方策①] アテンションを集めるブランディング (稼げるまちづくり)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 首都圏企業の本社機能、第2マザー工場、研究開発拠点、本社のIT開発をカバーする地方拠点等の誘致</li> <li>■ 観光・MICEの推進 (観光振興プランに基づく各種取組の推進)</li> <li>■ 新たな観光資源の創出 (若松北海岸の観光地化、血山観光施設のリニューアル、高付加価値ホテル誘致、関門海峡マゼックライン、お土産開発など)</li> <li>■ 「食」の魅力を活かした周辺観光の推進 (寿司 &amp; キャスル) ・NEWツーリズムの創生 (Matsuri, スポーツ, コンサート, サイクルなど)</li> <li>■ エンタメによる賑わい創出</li> <li>■ ナイトタイムエコノミーの創出</li> <li>■ 漫画、アニメ等のポップカルチャー、eスポーツ、アーハンスポーツの振興による賑わいづくり</li> <li>■ 若者で賑わうサービス産業の誘致</li> <li>■ 大規模コンサートやスポーツ大会の誘致</li> <li>■ エンタメ産業の振興 (漫画、アニメ、映画等)</li> </ul>	
[方策②] 企業誘致の推進と物流拠点の形成 (稼げる場づくり)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 企業誘致の推進</li> <li>■ 半導体、次世代自動車・蓄電池産業など戦略分野の誘致強化</li> <li>■ 産業用地の確保 (地域未来投資促進法の活用等)</li> <li>■ 補助金インセンティブの拡充</li> <li>■ 海外スタートアップの誘致促進 (シンガポール・台湾等)</li> <li>■ 物流拠点の形成</li> <li>■ 物流拠点構想に基づく各種取組の推進</li> <li>■ 北九州港と北九州空港の国際物流拠点化 (空港滑走路3,000m化延長等)</li> <li>■ 物流基盤を活かした成長産業の拠点形成 (半導体物流ハブの形成)</li> <li>■ 北九州エリアの物流集約拠点、九州・西中国エリアへの配送拠点の形成</li> <li>■ 物流革新、CN、共同輸送等</li> </ul>	
[方策③] 学術研究都市の知の活用 (稼げる基盤づくり)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ (仮称)北九州グリーンインパクトの推進 (風力発電関連産業の総合拠点化、水素の供給・利活用拠点化、サーキュラーエコノミーの推進、産学官によるGX推進)</li> <li>■ 学術研究都市の「知」を活用した未来産業 (半導体、宇宙、次世代自動車、ロボット等) の推進</li> <li>■ 「シリコン・シティ北九州」の構築 (オープンイノベーションの推進、半導体連携大学院等)</li> <li>■ 「リアルスペースワールド」の構築 (衛星データ利活用実証や小型衛星の開発・製造拠点化等)</li> <li>■ 「EV・次世代モビリティ社会」の推進 (地元関連企業のEV化新規参入・販路拡大支援、高度人材育成、自動運転技術の高度化、サーキュラーエコノミーの視点等)</li> </ul>	
[方策④] 生産性向上、高付加価値の推進 (稼げる企業づくり)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ M&amp;AやIPO等を活用した企業変革や企業規模拡大</li> <li>■ 半導体、AIの導入、DX推進等による中小製造業の事業変革や新ビジネス創出 (製造業のサービス化、デザインイノベーション、マーケットイン型のマーケティング等)</li> <li>■ 第3次産業 (商業・サービス産業、観光産業等) の高付加価値化 (富裕層向け高付加価値サービスの提供、シニアエコノミー、商店街の魅力アップ、ブランディング等差別化による高付加価値化、域外展開支援、DX推進等による効率化、キャッシュレスの推進)</li> <li>■ 中小企業の成長・発展に向けた経営基盤の強化 (円滑な事業承継、資金繰り支援、経営相談、販路開拓など)</li> <li>■ 多様な掛けあわせによる新たな価値創出</li> <li>■ 異業種による農林水産への参入</li> <li>■ スタートアップの創出</li> <li>■ 大企業や地域中核企業との協業 (オープンイノベーション)</li> <li>■ レガシー産業・アツギとの融合</li> <li>■ 民間企業と連携したシェアリングファクトリー (試作から量産まで)</li> <li>■ 社会課題 (ヘルスケア、フェムテック、アグリテック、グリーンテック、物流等) を解決</li> <li>■ 特区制度等を活用した規制緩和 (AI、ビッグデータ、ロボット技術、モビリティ等を活用したスマートシティ、ヘルスケア、農業、宇宙、物流等)</li> <li>■ 若者×事業承継 (ベンチャーフォーシャピ、のれん引継ぎスタートアップ、アツギベンチャー、サーチャント)</li> </ul>	
[方策⑤] ダイバーシティ経営の推進 (稼げる人材づくり)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ダイバーシティ経営の推進 (外国人、女性、シニア)</li> <li>■ 成長分野への労働移動のためのリスキリングの促進</li> <li>■ 留学生の就職・起業</li> <li>■ 専門性の高い高度人材の育成・確保 (尖った高度な教育)</li> <li>■ 将来を担う若者の地元就職促進と魅力的な職場づくり</li> <li>■ 地域会社化構想 (中小企業の人事、官民によるキャリア教育や協働領域の合同SaaS化等)</li> <li>■ 専門性の高い潜在的な人材活用 (女性、大手メーカー退職者)</li> </ul>	
[方策⑥] メガリージョンの構築 (稼げるエリアづくり)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 福岡空港、北九州空港の役割分担と相互補完の推進</li> <li>■ 広域観光・インバウンド・MICE推進戦略 (福岡空港から入国した外国人観光客の誘客促進等)</li> <li>■ スタートアップ支援の連携強化</li> <li>■ 広域産業集積・投資促進戦略 (都市間連携による企業誘致)</li> </ul>	

(仮称) 経済界と行政が一体となり、街ぐるみで稼げるまちを実現  
 北九州市産業共創プラットフォーム(北九州市産業振興戦略会議)を創設